

宇都宮市立富士見小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

【家庭での学習】について
○「家で、学校やじゅく決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」について、肯定割合が63.2%と、県の平均を5.2ポイント上回っている。このことから、自主学習に意欲的に取り組む児童が多いと考えられる。今後も、興味のあることについて進んで学ぶ姿勢を大切に育てていきたい。
●「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」について、肯定割合が66.6%と、県の平均を5ポイント下回っている。また、「家で、学校の授業の予習をしている」について、肯定割合が43.6%と、県の平均を8.6ポイント下回っており、「家で、学校の授業の復習をしている」についても、肯定割合が64.1%と、県の平均を1.2ポイント下回っている。このことから、自主学習に意欲的な児童は多いが、自分の苦手な学習や伸ばしたい力を意識して取り組むことが苦手な児童が多いと考えられる。予習や復習の大切さについて再度確認し、自主学習で取り組む内容について指導することで、児童の意欲を生かしながら学力が向上するように働きかけていきたい。
【学校での様子】について
○「自分はクラスの人の役に立っていると思う」について、肯定割合が64.2%と、県の平均を1.3ポイント上回っている。また、「学校での役わりや係の仕事にせきにんをもって取り組んでいる」について、肯定割合が96.6%と、県の平均を3.3ポイント上回っている。このことから、児童は自分の仕事に、責任をもって一生懸命取り組むことができていると考えられる。今後も学校行事や児童会活動などの機会を生かすことで、高学年としてより一層成長できるように支援していきたい。
●「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」について、肯定割合が72.7%と、県の平均を3.6ポイント下回っている。このことから、話し合いが苦手な児童が一定数いると考えられる。ペアやグループなどの人数や組合せを工夫したり、何について話し合い、何を目的とするのかを明確にしたりすることで、一人一人が進んで話し合い活動に参加できるような授業を展開していきたい。
【自分自身のこと】について
○「自分には、よいところがあると思う」について、肯定割合が82.9%と、県の平均をポイント3.2上回っている。今後も認め励ます指導を続けることで、児童が自己有用感を感じられるように心掛けていきたい。
●「むずかしいことでも、失敗をおそれないでちよう戦っている」について、肯定割合が64.9%と、県の平均を8.3ポイント下回っている。また、「自分の行動や発言に自信をもっている」について、肯定割合が55.6%と、県の平均を4.9ポイント下回っている。児童に挑戦する機会を与えたり、成功体験を重ねることができるよう支援したりすることで、何事にも進んで挑戦するような児童の育成を心掛けていきたい。

宇都宮市立富士見小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・基礎基本の確実な定着	・朝の学習時における漢字や計算練習の実施、ステップアップシートの活用 ・AI型学習ドリルを活用した、個に応じた基礎的・基本的知識・技能の定着	・漢字の読み書きについては、4年生は県の正答率を上回っている。5年生は県の正答率をほとんど上回っているが、6.5ポイント下回っているものもある。 ・数と計算の領域については、4年生は全体的に県の正答率を上回っている。5年生は県の正答率を全体的に上回っているが、4.4ポイント下回っているものもある。 ・4、5年生とも各教科の基礎内容で、県の正答率を上回っている。
・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	・各教科の見方・考え方を働かせる教師のコーディネート工夫 ・「何を学んだのか」を実感させることのできる振り返り工夫 ・各種学習調査の結果の分析と指導改善	・「学習したことを振り返る活動を行っている」の項目において、4年生は県の肯定割合を2.7ポイント、5年生は県の肯定割合を5.2ポイント、下回っている。 ・昨年度課題のあった「書くこと」に関して、今年度の4年生は県の正答率を上回っているものの無回答率が15%いる。5年生は本領域全てで県の正答率を下回っており、無回答率でも県の無回答率を2.4ポイント上回っている。
・個に応じた指導の推進による学習意欲の向上	・興味、関心をもって取り組める学習課題の設定・教材の開発	・「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の項目において4、5年生共に県の肯定割合を上回っている。 ・「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」の肯定割合は4年生は11.3ポイント上回っているが、5年生は7.5ポイント下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査において、いくつかの情報を基に整理して書くような記述式設問における無回答率が、4年生は15%、5年生は23.9%と他の設問に比べて高い傾向にある。また、質問紙では「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」という設問に肯定的に回答した児童の割合が4年生は約47.7%、5年生は71.8%と、「書くこと」に対する意識に課題が見られる。	自分の思いや考えを表出させるための支援	授業時間では、思考する時間を十分に確保し、自分の思いや考えを表出できるようにする。また、自分の言葉で授業のまとめをしたり、自分の考えを振り返って記入したりするなど、大事なポイントを押さえながら短い言葉でまとめるという経験を積み重ねていけるよう、引き続き指導を行う。さらに、児童に寄り添いながら思考の過程を励ますことで自信をもたせたり、友達のよい文章を提示して参考にさせたりし、諦めずに挑戦する意欲を高めるようにする。